第６回　埼玉輸血フォーラム

開会あいさつ

埼玉県合同輸血療法委員会　代表世話人　　前田　平生

皆さん、こんにちは。埼玉県合同輸血療法委員会の代表世話人をしております、前田でございます。

今日は、お天気には恵まれましたが、相変わらず寒い中、こうしてお集まりいただきましてありがとうございます。

埼玉輸血フォーラムというのは、埼玉県で、安全で適正な輸血を推進するために、６年前から輸血関係者に、年に一度集まっていただいて、いろいろな情報を収集したり、意見交換をする場として行ってまいりました。

合同輸血療法委員会としましては、これまで二つの業務小委員会を立ち上げて、これまで車の両輪としてやってきました。昨年から、これからの輸血医療において、看護師さんの役割が大きくなるだろうということで、次年度からは、看護師さんの方も看護部会というようなかたちで、いわば３本柱でやっていくというようなことを予定しております。

当面の、輸血医療の課題としましては、今日も血液センターの方から、この時期、県内において献血者が少ないというようなことで、皆さまにお願いをするということがございます。　輸血医療におきましては、血液不足というのは最大のリスクの一つなんですね。ですから、当然、献血を推進するということは、対策の一つの柱なのですが、そのほかにも、医療機関でやれることと言えば、自己血輸血を推進するということがあげられます。

もう一つは、この輸血フォーラムでもずっと取り上げてきていますけれども、緊急の大量出血に対して、これはもうかなり大量の血液が使われるということがありまして、それに対して、最適な輸血療法というのをとにかく確立しないといけないというのが、当面の課題であろうと思います。

そのためには、今、供給されている血液製剤をもう少し使いやすいかたちで供給すること。あるいは、止血のための製剤をもうそろそろ諸外国ではどこも供給しているわけですので、国内においても、ぜひ血液センターの方もユーザーの要望を聞いていただいて、新規の製剤を開発していただきたいと、切望しております。

そういう声を、このような輸血関係者の中で今日は取り上げていただいて、今後の血液不足に対する対策をやっていただければと思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。